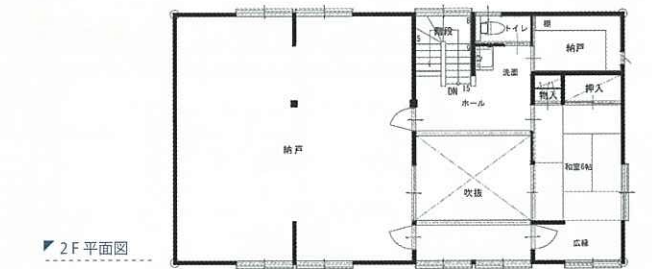


さらに100年住み続けられるように



Gunma Housing Award

04.



## Concept 設計趣旨

およそ105年経過した古民家の良さを十二分に残し、出来る限り自然の素材で仕上げ、素朴さ、シンプルさを基本に、「寒い・暗い・使いにくい」を解消する為、断熱性・耐震性の向上、吹抜け・窓に配慮しました。また、養蚕農家の特徴でもある越屋根を修復する事によって、煙突効果による風の流れを確保しました。使い勝手の悪かった奥様の動線を短くし、90代の父親がリハビリを兼ねて動き回れるよう、父親の動線に手摺を設け、床の段差をなくし快適に過ごせるよう考慮しました。また、従来の土壁の熱容量を利用する為、断熱材は外断熱とし、なるべく多くの土壁を残し蓄熱材としても活用しました。古材は強度、乾燥も申し分ないので、環境面から考えても解体廃棄し、建て替えるよりも改修し、さらに100年住み続けられるように計画しました。

04.

## リフォーム住宅賞 悠久の時を 次世代に継承する家

Gunma Housing Award

設計者／一級建築士事務所 林藤建築事務所  
施工者／株式会社 林藤ハウジング

## Review 講評

約105年を経過した養蚕農家。今では、閑静な住宅地となっています。

折々に修繕してきたが、近年屋根が傷み、雨漏りがするようになり、また、冬の寒さも辛くなってきて、建替えという選択もあったが「この家に住み続けたい、次世代に残したい」という思いで家族が賛同しました。日本の気候風土から育った古民家は、100年以上経ってはいるが、骨組みは丈夫、それを生かし、古民家の良さを残し快適な新しい生活空間を造りたいという思いを建築主・設計者・施工者が一体となって実現した住宅です。

養蚕農家特有の越屋根のある外観を見ながら正面玄関を入ると、古材の柱と梁を見せながら吹き抜けから降りてくる光が明るいホールを演出している。田の字型平面を残しながら、洋間からダイニング・キッチンへの連続した空間が、明るさと風の通る家を実現しており、大黒柱・梁・天井の黒と自然素材の漆喰・修復した格子戸が温かみと歴史を感じさせてくれます。

古民家特有の柱・梁・天井等の良質な素材を活かしつつ、現在の暮らしやすさを実現した。日本の伝統と歴史を後世に伝えていくことの大切さを教えてくれる住まいです。

